

北海道駒ヶ岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会幹事会見解

平成8年3月12日
気象庁

北海道駒ヶ岳では、平成8年3月5日、18時10分頃から火山性微動が観測され、これに伴い54年ぶり噴火が発生した。この噴火に先立ち震源の浅い微小な火山性地震が発生し、噴火後にはより深い地震が発生した。

噴火地点をはさむ昭和4年火口の辺長測量では平成元年以降僅かな伸びが観測されており、平成7年11月の水準測量では、従来の山下がり変動から、山上がり変動へと反転現象が捕えられていた。

この噴火では、昭和4年火口の南部に2つの主な火孔が開いた。また、その南方火口源に南北方向の長さ約200mの新しい亀裂が開き火孔列が形成された。南東方向に微量の降灰が認められ、その総噴出量は2万5千トンと推定される。

火山灰には新鮮なマグマに起因する物質は見当らず、噴火の様式は水蒸気爆発と判断される。噴煙活動は噴火直後は活発であったが、3日目以降は弱まっている。また、噴火後の微動や地震の活動も極めて低調である。

このような小規模水蒸気爆発は単発的に発生することがあり、また、大噴火の前ぶれになることがある。大正年間には水蒸気爆発を繰り返した後、昭和4年の大噴火に至った例がある。

今後とも、火山活動の監視を注意深く継続していく必要がある。

九重山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成8年5月29日
気象庁

九重山における地殻変動観測によると、硫黄山周辺で噴火後から観測されていた局地的な収縮は、本年2月下旬頃から停滞傾向を示し、4月末頃から膨張に転じた。

火山ガス観測によれば、噴火後活動の低下を示す変化傾向にあったが、最近活発化を示す成分変化が見られる。また、噴煙量もや、増加の傾向が見られる。

本年2月以降も星生山周辺を震源とする地震が時々多発し、3月下旬には星生山東山腹の火口直下で地震が一時活発となった。その後も、火口付近で微小な地震が継続して発生しており、5月14日には星生山の北西3～5kmを震源とする地震が多発した。

これらの活動の推移から、九重山の火山活動には活発化の兆しも見られる。

今後とも、その活動を監視していく必要があり、引き続き、火山活動に注意が必要である。